

新コーナー
スタート

あぐりすと

このコーナーでは、地域の農を担う、
情熱ある農業者をご紹介します。

川井の内ヶ巻地区で、稲作を中心に事業を展開し、サトイモや養液土耕栽培培土マトなどの園芸にも取り組み「うちがまき絆」。

平成22年に設立した農事組合法人で、約28haの農地を管理しています。昨年の作付面積は25・6haで、地域農業を担う役割を果たしています。設立のきっかけは平成16年の中越地震です。

同地区では家屋の全壊はなかったものの、農業面では田んぼのひび割れや農機具が破損するなどの被害を受けました。「地域の田んぼは地域で守る」を信念に19戸の農家が集まり、復興基金を活用して誕生した法人です。

佐藤正代表は「原点の米作りに立ち返り、高品質米

ファイルNo.1

内ヶ巻地区 うちがまき絆



▲JAの新入職員研修を受け入れ、田植えを指導する「うちがまき絆」の組合員

担い手育成 門戸開く

にこだわっていききたい」と意欲を示します。法人では、

「コシヒカリ」全量で5割減栽培米に取り組んでいます。また平成24年には食の安全・安心を追及し、日本型農業生産工程管理（JGAP）認証を取得しました。「JGAP認証農場として指名してくれる取引先もあり、販路につながった」と話します。

地域の農業を守っていくためにも後継者の育成が大切と考え、平成26年に若手従業員を採用した他、市が地域活性化の取り組みとして進める地域おこし協力隊制度を通じて、都市部から

就農を目指す若手を受け入れました。

「ここは農業が駄目になったら、地域も駄目になる土地。田畑を荒らさずに農地を守っていくことが地域活性化につながり、おのずと担い手も育っていく」と語る佐藤代表。

今後の目標を「地域から信頼され、内ヶ巻地区の農地を全部引き受けられるくらい体制をつくっていききたい」と語ります。

消費者から求められる

米づくり目指す

ファイルNo.2

土川 横田雅夫さん



小千谷市土川の横田雅夫さん（50）は、水稲10^{ヘクタール}に取り組む専業農家です。

父が営む農業を継ぐため、農業高校を卒業後18歳で就農しました。当時を振り返り、「初めは父の手伝いばかりで、農業に面白みを感じられなかった」と話します。転機が訪れたのは、就農1年目の冬に参加した県外農家研修です。「県外に出て、改めて地元の米の美味しさに気付いた」と語ります。6カ月間農業を学び、様々な経験をしたことで楽しさ

▲春作業に向けて育苗ハウスの除雪をする横田さん

を知り、やりがいに繋がりました。

指導農業者として担い手の育成に力を入れる横田さん。毎年、2泊3日で高校生を受け入れ、技術指導をします。「生徒のチャレンジ精神に触発され、農業の楽しさを再確認できる」と語ります。高校時代に農家で指導を受け、成長に繋がったことから受け入れを始めました。また、小千谷市認定農業者協議会の会長や農業委員、消防団本部員などを務め、地域の活性化にも貢献します。「様々な活動で視野が広がった。若手農業者も積極的に参画してほしい」と呼び掛けます。

横田さんの経営方針は、地力を生かした稲作を行い、コストのかからない農業を目指すことです。田んぼに米ぬかやもみ殻を入れるなど、土づくりに力を入れています。「農薬を減らすと田んぼの中でカイエビなどの

生物が育ち、自然を感じて面白い」と笑顔で話します。平成27年産米は全量一等に格付けされました。

「今後の農業は、農業者が行政やJAに提案していくことが大切。そのためには農業者自らが勉強して考え、一緒にレベルアップしていくことが重要だ」と強調します。

「消費者の声を聞いて、求められる米づくりに取り組んでいきたい」と意欲を示します。「農業は体調管理が大切。健康に気を付けて、楽しい・面白い農業を続けていきたい」と笑顔を見せます。

【全体運】 好奇心が旺盛になっています。新しい趣味を始めたり、体験教室に参加したりすると良い刺激に。小旅行も幸運

【健康運】 適度に体を動かせば元気に過ごせそう
【幸運を呼ぶ食べ物】 ウド